



2013.3.1.

Tel 080-3451-8400

E-mail hasshoren8.zim@softbank.ne.jp

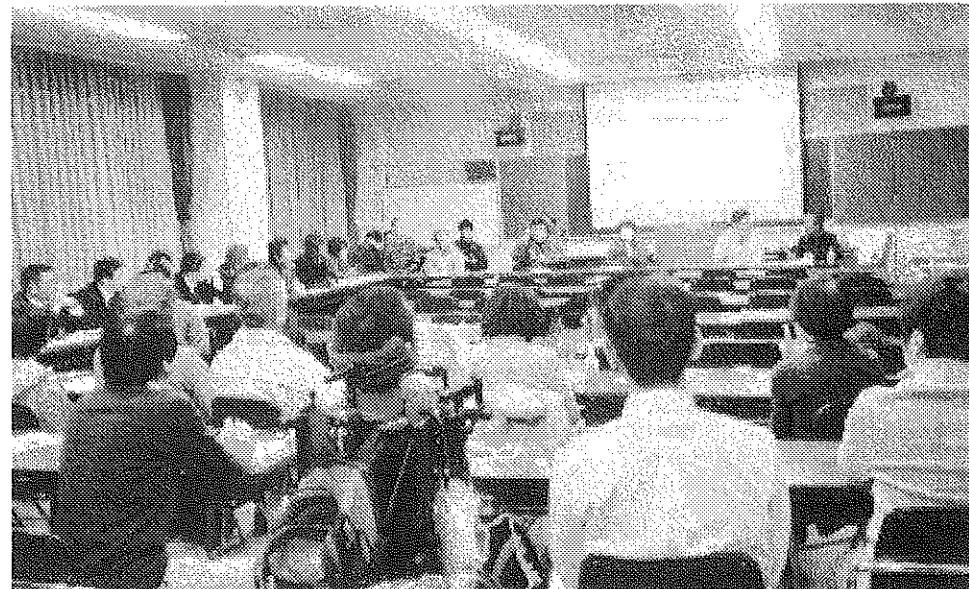
市議との懇談会の報告

市議との懇談会では、市議会議員 11 名、八障連関係者57名の方々にお集まり頂き、とても有意義な会となりました。お集まり頂きました皆様、誠にありがとうございました。

今回のテーマは『防災』という大きなテーマということや、今までにない

切り口という事もあり、実際に懇談が始まるまで、どの様に会が進行してゆくか、とても不安を抱きながらの懇談会となりました。

結果としては、八障連として纏められた防災に関する方向性や取り組みなどが提示される事はありませんでしたが、様々な障害のある方々が、それぞれの立場で、3.11 震災時や町会での防災訓練に参加しての体験談、地域との繋がり難しさ、震災への心構えや行政に対する願いなどの意見が数多く挙がり、全体的な統一感はないが、それが逆に様々な障害者団体の集合体である八障連という特殊性が色濃く現れた印象を受けました。情報提供と交換、顔が見える関係性の構築という点では、大きな収穫があったように思われる今年度の市議との懇談会でした。 文責：川出





2月の運営会議の報告

2月の運営会議には市の都市戦略室から2名の職員の方と細井障害者福祉課課長が参加され、八王子市が移行を目指す、中核市構想について説明をされました。

八王子市が中核市を目指すに目的としては、市が独自の判断に基づいて行える市政の領域を拡大することによって、今まで国や都の基準によって八

王子のニーズや地域性に合致しなかった施策などを改め、より暮らしやすい市民サービスを提供できるからと説明がありました。

障害者福祉課関連の事柄では、障害者手帳が今までの東京都の発行から、八王子市の発行へ移行され、東京都の監査についても同様に移行されるとの事でした。また、東京都単独の事業や都加算などに関して、中核市になることによって廃止になってしまうのではないかと懸念する声に対しては、実質的には今までのサービスは現状維持となり、事業そのものが市へ移行されるものと考えてもらいたいと補足がありました。

文責;川出

今後のスケジュール

3月 21日 (木)	例会	18時~19時	クリエイトホール 10階	第1学習室
3月 21日 (木)	運営委員会議	19時~20時	クリエイトホール 10階	第1学習室

〈お知らせ〉

今年度の会費の納入にご協力頂き、誠にありがとうございました。お陰をもちまして残り僅かとなりました。ご連絡のありました会員には、早急の振り込みをお願いします。



コラム 『慢性肝臓病(CKD)と人工透析』

八王子市地域腎友会

事務局長 岩崎 正 宏

前号においては、慢性腎臓病(CKD)が進行し慢性腎不全末期になるとそこから生命を維持していくためには最終的には人工透析治療導入が必要不可欠であること、また例えば大地震等の災害発生時のライフラインストップ等に伴い持続的にこの治療ができなくなった場合の人工透析患者の平均余命は治療離脱から1週間から10日といった極めて厳しい究極の延命治療であることなどを記述してきました。

では、一般的・平均的な週3回・1回4時間等の透析治療条件をこの先ずっと間断なく維持できたとして、私たち透析患者の平均余命は、一般の人と比べ、どのくらいあるのでしょうか。信頼できるある統計データによれば、透析患者の平均余命は、残念ながら一般の人の半分未満という結果が出ております。すなわち、満50歳で透析治療を受け始めた人のそこから先の平均余命は、男性の場合「14～15年(一般の人は30～31年)」、女性の場合「16～17年(一般の人は36～37年)」となります。このことを換言すれば、透析治療が、腎臓の代替治療としては、いかに不十分・不完全かということになります。

そこで、「八王子市地域腎友会(通称:「八腎会」)」の大きな目的・役割の一つは、八王子市在住の透析患者が、一般的・平均的な週3回・1回4時間等の透析治療条件から脱却してこれを向上させ、でき得る限り一般の人と同じように元気で長生きのできる透析治療を行えるようにお手伝いすることです。

具体的には、「八腎会」主催の年3回開設の「透析サロン(学習・交流会)」等を通じ、それぞれの透析患者が自らの透析治療条件を見直し、向上させていくための必要最低限の透析治療の理論と知識を身につけてもらい、透析治療に向き合うスタンスを、これまでの「おまかせ型透析治療」ではなく、自ら「積極的参加型透析治療」に変える活動を行っております。

透析患者の治療条件の見直し・向上方法には、いろいろありますが、誌面の関係ですべてをここでは紹介できませんが、代表的な例を一例挙げれば、1回あたりの治療時間を現在の4時間ではなく、できるだけ例えば5時間以上にするといった「長時間透析」があります。1回あたりの治療時間を延ばせば延ばすほど生命予後が良い、すなわち元気で長生きのできる確率が高くなっていくことは、すでに人工透析医療界では統計的に証明されています。

「八腎会」の活動は、以上の目的・役割に基づくものの他、必要に応じ私たち透析患者をはじめとする障害者の福利厚生・災害対策等における八王子市当局への要望・陳情・請願を行ったり、八王子市の障害者イベント等(年7回)へ毎年積極的に参加しています。

最後に、「八腎会」では、慢性腎臓病(CKD)に関する電話相談窓口を二つ設けておりますので、それぞれ次に紹介しておきます。どうぞ皆さん、遠慮なくご利用・ご活用いただきたいと思っております。

【1】慢性腎臓病(CKD)全体の電話相談<八王子市身体障害者相談員「池谷会長」へ>

池谷会長 TEL: 042-666-6066

【2】透析何でも電話相談(ピア・カウンセリング)<事務局長「岩崎」へ>

事務局長岩崎 TEL: 042-663-8746

なお、「八腎会」の活動状況等が記載されているWebサイト「八王子市地域腎友会」お知らせ掲示板も紹介しておきましょう。(地域腎友会 検



一方どうあがいても労働力になりえない人間はどこまでいってもよくてお客様、悪ければお荷物としてしか社会に包摂されることはありません。今まではあまり問題化されて来なかった様々な「障害」の発見は、一般的な科学、医学の発展以外に、特に先進国における労働の在り方の変化にもよるでしょう。サービス業、中でも「感情労働」と呼ばれる対人適応能力を強く求められる領域の拡大。労働は多様化する一方、ちょっと協調性に欠ける者は即、「使えない奴」となり、生活手段を失い、最近、これは当たり前の光景になってしまいました。労働のあり方が求める人間像は、その反対側に求められない人間としての障害者像を常に投影し続けています。「早期発見」「早期療育」による取り出し教育は、共生の文化を所与のものとして体得し形作る可能性に満ちた貴重な幼少期を、冷酷に分断してしまうことにしかありません。

やはり障害児・健常児の個々の発達の問題としてしか捉えられていないのが限界であると思います。

必要なのは障害児と健常児が共に育つ／生きる「文化」でしょう。「文化」は個人の中に資質として宿るものではなく、関係性の問題なのです。労働することと、生存する権利とは分離するべきでしょう。

「働かざるものも当たり前のように食う」のです。

賃労働に規定された人間観を転換し、労働力育成としての教育の狭さを乗り越え、個々ばらばらの人間同士が共に生きる関係性、文化を身近なところからでも創りだしていければよいとおもいます。(おわり)

さて、6回に亘ってお送りしてきた《インクルーシブ教育について》ですが、最後まで読んでくださった方が、どれだけいらっしゃるでしょうか(苦笑)小難しい言葉をいろいろと並べてしまいましたが、ようは『障害の軽い人、社会に対応できる人のみを受け入れるのではなく、障害の種別や重度軽度に関わらず、全ての子どもたちに自分らしく過ごせる機会を』というテーマで書きました。はたして上手く伝わったかどうか…

そして障害児以外にも、学習環境に困難を抱えた子どもたちは多いのです。

本当の障害とは、身体や心に現象として現れる個性の違いではなく、人との繋がりを持たないこと。人の輪の中に入れられないことだと思います。一人でも多くの子どもたちが、取り残されることなく笑顔でいられる学校作りこそ、明るい社会の礎であると思います。

最後までお付き合いいただき、ありがとうございました<(_ _)>

